

海遊び安全講座 実施報告書

平成28年12月20日

環境ボランティアサークル亀の子隊

鈴木 吉春

1. **タイトル** 先生方のための海遊び安全講座
～スノーケリングをしながら楽しく学ぼう
2. **日時** 平成28年8月11日(木) 9:30～11:30
3. **場所** 宇津江海岸
4. **目的**
 - ① 海辺は子どもたちにとって魅力的な遊び場であるが、常に危険を伴うことを知る。
 - ② もしものことが起きたとき、冷静に対応で切る技術を身に付ける。
 - ③ 海辺の楽しさと危険を子どもたちに知らせ、対応の仕方を教えることが出来る。
5. **対象** 田原市公立小中学校教員
6. **参加者数** 15名
7. **実施内容**
 - ① 危険クン探し
 - ② 自分が落水したときの対応
 - ア 着衣泳
 - イ 背面浮き
 - ③ 友だちが落水したときの対応
 - ア 浮力体の応用
 - イ 救助のための方法
～ペットボトルレスキュー
 - ・ ロープワークの練習
 - ・ 投げる練習
 - ウ 落水者を引き上げる技術
 - ④ 海で楽しく、安全に遊ぶために
8. **参加者の声**
 - * 海での遊びに伴う危険について具体的に体験しながら学ぶことができてよかった。
 - * 終わってみると、いつの間にか流されていて、危険は知らない間に来ると思った。
 - * 渥美半島は海で囲まれているところなので、いざという時に自分の身を守ることができるように「浮く」ことを身に着けることや簡単な「浮き具」を知っておくことは大切だと思った。

服装・持ち物

水着・濡れてもよい服・濡れてもよい靴・
タオル・着替え等
2Lペットボトル
熱中症予防のための飲み物
(持っている人は)
マリンシューズ・ウェットスーツ

9. 活動の記録写真





10. 講座を終えて

夏のシーズン中に実施したいということで、いくつかの学校に行き、現職研修での実施を依頼したが、すでに夏の予定は組まれていてはいることができなかった。そのために、急遽頼んで人数を集めた。

参加してくれた先生方は新任から6年目という先生。話を聞くと、水泳講習はあるが、泳法の指導で「背面浮き」はないという。実際ライフジャケットつけなければできない先生もいた。しかし、さすがに教員、15分程度の練習で全員が1～2分は浮いていられるようになった。

プログラムに沿って講座をすすめたが、2時間という時間は短く、休憩をすることもなく進めることになったのは反省である。また、活動場所は10年ほど前に海水浴場を閉じたところで、周囲には施設がなく、終了後は感想を聞く時間で体を乾かし、車で数分かかる施設にシャワーを借りに行った。ここの利用についても急遽市役所を通して依頼してOKをもらった。

活動そのものは天候にも恵まれた中で楽しくできたが、計画実施までの時間が短く、主活動の外側について詳しく計画を立てられなかったことは反省。

参加者の感想から見ると、海遊びについての意識を高めることができたと思う。無事に実施できて安心したということに加えて、来年度以降、定期的いくつかの学校で現職研修として実施できるように呼び掛けたいと思った。